

令和 8 年 2 月 1 2 日

調布市福祉健康部福祉総務課

調布市社会福祉協議会

## 令和 7 年度地域福祉コーディネーター事業等報告書

令和 7 年 1 2 月末時点（令和 7 年 4 月 1 日～令和 7 年 1 2 月 3 1 日）

## I 多機関協働による包括的な支援等

## ◆ 多機関協働の取組

## 1 取組の概要

地域福祉コーディネーターが複雑化・複合化した支援ニーズを抱える相談者に対し，重層的支援体制整備事業や福祉圏域別専門職等ネットワーク会議等を通して，豊富な社会資源を活用しながら，課題解決に向けた連携支援を行う。

地域住民や関係機関とともに地域生活課題を発見し，受け止めるとともに，多機関協働により課題の解決に取り組む。

## 2 具体的な取組内容等

## (1) 地域の支援関係機関等との連携による地域生活課題の早期把握

## ア 事業内容

多機関協働による包括的な支援体制の構築の取組と連動し，各福祉圏域において支援関係機関等のネットワーク構築を図る。

## イ 期待される効果

各福祉圏域の地域特性を生かしながら関係機関のネットワークを構築することで，一つの機関だけでは解決しづらい複合化・複雑化した問題を抱えた世帯に対し，チームアプローチによる支援に取り組むことができる。また，地域住民主体の相談を受け止める場とも連携を図ることで，フォーマル・インフォーマルを有機的に組み合わせた，ソーシャルサポートネットワークの構築が期

待できる。

## ウ 取組目標

### ① 量的目標

- ・各圏域において，多機関によるネットワーク会議等を1回実施
- ・支援関係機関等との情報交換及び連携会議を6回実施

### ② 質的目標

各福祉圏域での専門職の連携強化を図るため，情報交換や連携会議を通して，役割の理解やケース対応への共通認識を深める。また福祉分野の関係機関だけではなく，医療や教育，司法，就労支援，居住支援，商業者等，多様な分野の関係機関との連携を構築する。

## エ 成果

### ① 量的成果

- ・各圏域においての多機関によるネットワーク会議等 19回  
(内訳) ・圏域別専門職等ネットワーク会議 8回
  - ・富士見子ども連絡会 4回
  - ・支援会議及び重層的支援会議 7回
- ・保健所，地域包括支援センター等の相談支援機関等との情報交換及び連携会議等 32回

### ② 質的成果

- ・福祉圏域別専門職等ネットワーク会議を各圏域1回実施した。会議内容や出席機関は圏域ごとに決め，初めて参加した専門職も話しやすい工夫などをした結果，情報交換及び関係性構築の場となった。高齢，障害，子ども，保健医療，生活困窮等の多分野の担当者が参加し，社会資源や相談支援上の地域特性，地域生活課題，支援ニーズ，対応に苦慮しているケース，分野を越えたチームアプローチの重要性等の共有を行った。また，過去の支援会議で取り上げられたケーステー

マや参加した支援関係機関等の種別について情報提供を行うとともに支援会議出席者からの感想等を話してもらうことで、重層的支援体制整備事業の認識を深める機会とした。

- ・ 4つの福祉圏域合同で実施した会議では、その圏域に属さない医療機関や相談支援事業所等の参加があり、19機関で役割や連携事例の紹介などを行った後に、圏域ごとに分かれて、情報交換を行った。
- ・ 相談支援機関等との情報交換では、新規の配属職員の紹介、各機関の役割、複合化・複雑化した支援ニーズを抱える世帯のケースにおける支援状況、連携事例、把握するフォーマル・インフォーマル資源などについて情報共有を行った。その結果、各機関の役割に対する理解や顔の見える関係を構築することができ、連携体制の強化が図られた。さらに相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援につながる支援ニーズの把握やその連携方法について深める機会にもなった。

## (2) 複雑化・複合化した支援ニーズを抱える相談の受け止め

### ア 事業内容

複雑化・複合化した支援ニーズに関する相談を、地域福祉コーディネーターが受け止め、多機関協働により課題解決に向けた対応を行う。また、重層的支援会議及び支援会議による支援プランの検討や社会資源の充足状況の把握と開発に関する検討等を行う。

### イ 期待される効果

複雑化・複合化した支援ニーズを抱える世帯の相談を受け止め、把握することで、多様な分野の支援関係機関等による包括的な支援体制の強化につながる。また、重層的支援会議及び支援会議を通して、支援プランの検討、既存の社会資源の共有を行うとともに、解決が困難な課題を把握することで、新たな支援メニュー等を検討・整理することができる。

## ウ 取組目標

### ① 量的目標

複雑化・複合化した支援ニーズに関する相談の受付 48件

### ② 質的目標

複合化・複合化した支援ニーズを抱える世帯の相談を受け止め、多機関協働による包括的な支援を行うことを通して、支援関係機関の連携体制強化につなげるとともに、各支援関係機関の支援の幅を広げる。また、重層的支援会議及び支援会議等を通じて、支援プランを検討するとともに、把握された支援ニーズや地域生活課題等に対して、参加支援及び地域づくりに向けた支援を一体的に取り組む。

## エ 成果

### ① 量的成果

複雑化・複合化した支援ニーズに関する相談の受付 46件

### ② 質的成果

- ・支援会議を7回（7ケース）実施した。複雑化・複合化した支援ニーズを抱える世帯の多様なケースについて、情報共有、支援の方向性検討、多機関連携における役割分担等を行った。会議には、高齢・障害・生活困窮・児童等の福祉分野のほか、医療、教育、司法など多分野からの参加があった。
- ・支援会議で支援検討を行ったケースのうちの1件について、重層的支援体制整備事業利用の本人同意を取り、プラン作成に至った。各機関の役割、本人の生活環境整備や社会参加への要望に合わせたプランに基づき、日々関係機関と連携を取りながら、支援を継続している。

## ◆ アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組

### 1 取組の概要

潜在的な支援ニーズを抱える者を早期に把握するための体制構築に向けた取組を行うとともに、本人やその世帯とのつながりを形成するための支援や拠点の整備等に向けた取組を行う。

### 2 具体的な取組内容等

#### (1) 複雑化・複合化した支援ニーズに対する訪問による相談支援

##### ア 事業内容

複雑化・複合化した支援ニーズを抱える対象者に対して、アウトリーチを通して、相談支援及び伴走支援による継続支援を行う。

##### イ 期待される効果

地域福祉コーディネーターがアウトリーチ先で相談を受けることで、複雑化・複合化した支援ニーズの早期発見につながる。また、複雑化・複合化した支援ニーズを抱える相談者に対して、アウトリーチによる支援を通して、継続的な伴走支援を確保する。

##### ウ 取組目標

#### ① 量的目標

- ・ 年間の訪問件数 1, 440 件
- ・ 訪問による新規相談受付 48 件
- ・ 複雑化・複合化した支援ニーズに対する訪問による相談支援 400 件

#### ② 質的目標

地域にアウトリーチすることにより、地域住民等が把握する個別課題を抱える世帯の情報を把握し、適切に相談支援等につなげることで、地域生活課題の早期発見・早期解決を図る。また、複雑化・複合化した支援ニーズを抱える相談者に対して、相談支援が途切れることがないように、アウトリーチによる伴走支援を行う。

## エ 成果

### ① 量的成果

- ・年間の訪問件数 1, 527件
- ・訪問による新規相談受付 54件
- ・複雑化・複合化した支援ニーズに対する訪問による相談支援  
342件

### ① 質的成果

- ・地域活動へのアウトリーチ先で関係づくりを重ねた地域住民から、近隣に住む独居の方が心配だがどうすればよいか等の相談を受けた。地域住民同士のゆるやかな見守りによる地域生活課題の早期発見から、支援関係機関等への相談につながった。

## ◆ 参加支援の取組

### 1 取組の概要

本人やその世帯の支援ニーズを踏まえた丁寧なマッチングとメニューづくり，本人やその世帯への定着支援・フォローアップ，地域における社会資源の活用体制構築等を行う。

### 2 具体的な取組内容等

#### (1) 個別性の高い支援ニーズに対する取組

##### ア 事業内容

本人やその世帯のニーズや抱える課題などを丁寧に把握し，社会資源や支援メニューとのマッチングを目指した継続的な支援を行う。

##### イ 期待される効果

個別ニーズに対応するため，本人やその世帯の支援ニーズと地域の社会資源との間の調整を継続的に行うことで，多様な形での社会参加の実現が期待できる。

## ウ 取組目標

### ① 量的目標

- ・複合課題を有するケースにおける本人及び家族への継続支援  
400件
- ・複合課題を有するケースにおける地域住民や専門機関との  
継続支援 800件

### ② 質的目標

既存の各種制度における社会参加支援に向けた支援では対応できない個別性の高い支援ニーズを有している人に対し継続的に支援を行うことで、多様な形での社会参加の実現を目指していく。

## エ 成果

### ① 量的成果

- ・複合課題を有するケースにおける本人及び家族への継続支援  
645件
- ・複合課題を有するケースにおける地域住民や専門機関との  
継続支援1,444件

### ② 質的成果

- ・障害福祉サービス事業所から、発達障害のある相談者がボランティア活動等で地域住民とつながる機会をつくりたいと相談があった。本人の意向を確認したうえで、常設の居場所のボランティア参加へつなげた。
- ・精神疾患を抱える相談者から地域活動に参加したいという相談を受け、地域のお祭りのボランティア参加へつなげた。

## (2) 狭間のニーズに対する受け皿の拡充に向けた取組

### ア 事業内容

既存の社会資源への働きかけやその拡充を図り、本人やその世帯の支援ニーズや状態に合った支援メニューをつくることを目的に、本人やその世帯と社会とのつながりづくりに向けた支援を行

う。

#### イ 期待される効果

本人やその世帯の社会参加に向けた支援を行うために，社会福祉法人や企業・商店等へ働きかけを行うことで支援メニューを増やすことが期待できる。

#### ウ 取組目標

##### ① 量的目標

- ・社会福祉法人や企業等並びに既存の社会資源等への働きかけ  
400件

##### ② 質的目標

社会福祉法人や企業並びに既存の社会資源等へ多様な支援メニューが作られるよう働きかけることで，狭間のニーズを有する者の受け皿としての機能を拡充していく。

#### エ 成果

##### ① 量的成果

社会福祉法人や企業等並びに既存の社会資源等への働きかけ  
464件

##### ② 質的成果

- ・一戸建てを借用し，主に中高生の居場所を週2日実施している団体への支援を行った。子ども分野の相談支援機関へ情報提供を行い，現在，相談支援機関が関わる世帯の子どもが参加している。活動者自身による相談支援機関への訪問を促すとともに，相談支援機関へ直接現場を見学してもらうよう依頼し，情報交換の機会をつくり，活動者の想いや支援ニーズ等をお互いに共有してもらうよう働きかけを行った。これから居場所を拡大していく過程で，より相談者の声を反映した活動や取組を検討するための支援を意図的に行った。
- ・調布市文化・コミュニティ振興財団より，調布国際音楽祭の子ども無料招待企画の中で，子ども食堂参加者枠をつくり，

より多くの子どもの音楽に触れる体験につなげたいという相談を受けた。市内の子ども食堂の協力を得て、周知協力を行った。地域貢献の支援を通して、子どもへの体験の機会創出の必要性や子ども食堂活動者の思いなどを伝えることで、芸術を取り扱う関係者への働きかけを行った。

## Ⅱ 住民主体の地域における支え合いの仕組みづくり

### 1 取組の概要

介護，障がい，子ども・子育て，生活困窮等を対象にした地域づくりに係る事業を一体的に実施し，社会的孤立解消の支援とともに，地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりに向けた支援を実施する。また，そのための新たな担い手の発掘等を行う。

### 2 具体的な取組内容等

#### (1) 地域づくりに向けた支援

##### ア 事業内容

自治会等の地縁組織，地区協議会，ひだまりサロン，当事者会・家族会，関係機関等に対して，地域住民自らが地域生活課題を主体的に捉え，その解決を試みることができるよう働きかけ，支援を行う。

##### イ 期待される効果

地域生活課題を主体的に考える意識を醸成することで，各種団体の取組がより推進されるとともに，地域活動に参加する人が増える。

##### ウ 取組目標

#### ① 量的目標

160団体に対し，話し合いの場づくりやイベント等の取組への働きかけを480回行う。

## ② 質的目標

話し合いの場の創出等により，地域住民が主体となって地域生活課題に関われるよう働きかけることで，地域住民の意識や行動の変化を促す。

## エ 成果

### ① 量的成果

自治会，ひだまりサロン，地区協議会，子ども食堂等のボランティア団体，関係機関，企業・商店，各種ネットワーク等 258 団体に対し，687 回の働きかけを行った。

### ② 質的成果

令和4年度より，企業による整理収納ワークショップを行ってきた。店長やスタッフが変わっていく環境でも，取組の効果や地域住民の声を伝えながら，働きかけや関係づくりを行い，取組を継続してきた。現在は地区協議会が主催となり，CSWと企業の三者で地域の親子向けに行われている。また，企業と地域住民との直接的な接点が生まれたことで，お互いの意見交換の中で新たなアイデアが出るようになり，現在，新たな関心層とのつながりを求めて，白紙の本にみんなで絵を書いて，それを展示する企画の検討が始まった。

## (2) 地域住民等が相互に交流を図ることができる場の整備

### ア 事業内容

地域生活課題を抱えた方も参加しやすく，誰もが気軽に立ち寄り，交流できる地域住民主体の場の整備について，地域住民や関係機関とともに検討を進める。また，地縁組織やひだまりサロン，ボランティア団体等の取組の中で地域生活課題を把握できるよう働きかけるとともに，地域住民主体による相談を包括的に受け止める場の構築を目指す。

### イ 期待される効果

ひだまりサロンや当事者・家族会，社会福祉法人等，既存の地域

資源の活用を通して、地域住民の交流、孤独・孤立防止、見守り体制の構築、個別ニーズ及び地域ニーズの把握、地域福祉の担い手の発掘等が期待できる。また、相談を受け止める地域住民の増加やアウトリーチ先で相談を受ける機会が増加することで、地域生活課題の早期発見・早期解決が図られる。

#### ウ 取組目標

##### ① 量的目標

ひだまりサロン等の交流の場の新規立ち上げ 8箇所

##### ② 質的目標

ひだまりサロン等の交流の場を、地域生活課題を発見する拠点にするとともに、地域福祉の担い手の発掘等につなげる。

#### エ 成果

##### ① 量的成果

- ・ ひだまりサロン 4 箇所
- ・ ひだまりサロン以外の交流の場 10 箇所

##### ② 質的成果

- ・ 常設の居場所のボランティアから、地域食堂を実施したいとの相談を受けた。まずは、民生委員・児童委員や児童館、学校等にヒアリングを行い、ほぼ毎日朝食を食べていない児童や心配な子どもがいる現状を知る機会となった。ヒアリングの中で、通学中に学校以外に寄ることのリスク・懸念点が挙がった。担い手探しの過程では、地域生活課題を共有する機会が生まれた。立上げに向けた検討において、開催頻度やリスク等の葛藤もあり、壁に当たる場面もあった。その中で、自分たちができることは、提供することではなく、食事の支度方法を教え、子どもが自分で食事を用意できる手助けをすることというアイデアが生まれ、取組が立ち上がった。
- ・ 地区協議会の運営委員から、「果樹園の果物で道が汚れている。果樹園の所有者は自由に活用してもよいと言っている」と

いう情報があり，清掃を兼ねたフルーツ狩りやジャム作りなどを行う取組はできないかという相談を受けた。相談者，近隣で活動をしている子育て支援団体や子ども食堂，知的障害者通所施設に声掛けし，検討の場を設定した。その後，近隣の自治会や行政の協力の輪が広がった。さらに，果樹園だけでなく，公園もきれいにしてみんなで遊ぼうというアイデアが挙がり，活動が立ち上がった。

- ・地域住民から，体操の活動に参加したが歩ける距離に自分に合う活動の場がない，少し負荷があって楽しい体操の活動の場があるといいという相談を受けた。また，活動場所の資源が少ないエリアであったため，開催場所について有料老人ホームへ相談した。相談者の意向を聞き取りながら，有料老人ホームのスペースをお借りして，地域支え合い推進員とCSW主催でプレ開催を行った。回を重ねながら，仲間が集まり，主体も参加者に移り，体操グループが立ち上がった。ケースのポイントとしては，参加者が新たな担い手になった点，体操や健康に対するニーズを把握する機会になった点が挙げられる。

### (3) 住民同士が交流できる多様な地域の拠点（居場所）の整備

#### ア 事業内容

地域生活において，社会的孤立や生きづらさ，生活困窮等をはじめとする多様な社会課題等が複雑化・複合化することによって，解決が困難な状況にある本人や世帯等に対して，世代や属性を超えて交流できる拠点（居場所）の整備等，多様な地域活動が生まれやすい環境整備を推進するため，補助金を交付する。

#### イ 期待される効果

多様な地域活動の創出や既存の拠点（居場所）等の拡充への支援をするとともに，その活動や拠点が地域の中の社会資源として交流・社会参加・学びの機会を生み出し，身近な地域における住民主体による共助の取組の活性化につながる。

## ウ 取組目標

### ① 量的目標

- ・新たな拠点（居場所）の立ち上げへの支援 1回
- ・既存の拠点（居場所）の拡充への支援 2回

### ② 質的目標

多様な世代や属性を対象にした地域活動への支援を行うことで、住民自らが地域生活課題を把握すること、地域生活課題を抱える本人やその家族に対する支援メニューや社会参加の機会づくり、当事者や地域住民の主体的な活躍の機会の創出、地域福祉コーディネーター等のアウトリーチ先としての拠点（居場所）整備へつなげる。

## エ 成果

### ① 量的成果

- ・新たな拠点（居場所）の立ち上げへの支援 0回
- ・既存の拠点（居場所）の拡充への支援 1回

### ② 質的成果

- ・既存の常設の拠点（居場所）で、子ども向け、高齢者向け、多世代向けの取組をはじめ、外国にルーツを持つ地域住民や障害のある方などが担い手となって様々な取組やイベントが行われている。拠点（居場所）の存在を知らない方や地域生活課題を抱える世帯へPRを行い、社会参加のきっかけをより一層創出するため、外部イベントなどへ出向いてプロジェクターとスクリーンを活用した活動紹介、ホームページのリニューアル及び紹介動画の作成等、機能や周知の拡充を行った。

## (4) 地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知

### ア 事業内容

地域住民の相談を包括的に受け止める場について、アウトリーチ等を通じて、その存在と役割等の周知を図る。

### イ 期待される効果

地域福祉コーディネーターの役割及び地域住民の相談を包括的に受け止める場等について、認知度が上がることで、問題が発生した時に相談しやすい環境が構築できる。

#### ウ 取組目標

##### ① 量的目標

啓発件数 800回

地縁組織や関係機関への会議やイベント、地域福祉活動等へ出向いて啓発する。また、社会福祉協議会が実施している小地域交流事業等においても啓発する。

##### ② 質的目標

地縁組織や関係機関、地域住民主体の拠点等への周知のほか、社会福祉協議会が実施している小地域交流事業等、各地域のイベントにおいても広報し、相談を包括的に受け止める場の認知度を高める。

#### エ 成果

##### ① 量的成果

啓発件数 647回

##### ② 質的成果

- ・ 公共施設等の場所の資源が少ない地区において、飲食店が取り組む多世代向け食堂の立ち上げから1年が経過し、子どもから高齢者までが参加し、活動が定着してきている。この多世代が集まる場に積極的に参加し、スタッフやボランティア、参加者に対して、CSW、相談支援機関並びに地域活動等のPRを行っている。また、個別支援で関わる社会的孤立状態かつそれぞれに支援ニーズを抱える3世代（子・親・祖父母）世帯も参加につなげ、子ども食堂スタッフには、ゆるやかな見守りや声掛け、相談支援機関へのつなぎ役を担ってもらっている。
- ・ サロン活動の一環で、地域住民が「行ってみたい」「聞いてみたい」「やってみたい」と思えるような講座をスタッフと一緒に

に企画し、新たな参加を促す取組を行った。楽しみ、学び、交流、笑い、フレイル予防、情報交換の場、情報が行き交う場、相談するきっかけなどの機能を果たす場とすることで、多様な関心層が集まり、中にはサロン参加が初めての方や社会福祉協議会の存在を知らない方もいた。スタッフや参加者に対して、C S W、相談支援機関並びに地域活動等のP Rを行った。

#### (5) 地域住民等に対する研修の実施

##### ア 事業内容

地域住民等に対し、地域生活課題の理解促進を図る取組（講座・勉強会・視察等）を実施する。

##### イ 期待される効果

この取組に参加することで、住民一人ひとりが地域生活課題を発見・把握・理解し、地域生活課題への興味・関心を持ち、地域福祉活動に主体的に関わっていくきっかけをつくる。

##### ウ 取組目標

###### ① 量的目標

16回

###### ② 質的目標

地域住民等に向けた講座・勉強会・視察等を実施することで、意識及び行動の変化を促す。

##### エ 成果

###### ① 量的成果

30回

（内訳）・地域生活課題に関する講座の開催 14回

・他機関・団体が実施する講座等での講師 12回

・先進事例の視察 3回

・勉強会への参加 1回

###### ② 質的成果

・団地の集会所で月2回居場所活動を行う団体から、パラスポー

ツのボッチャ体験講座を開催してほしいと相談を受けた。ボッチャの体験を通じて、障害者はもちろん、子どもや高齢者など多様な立場の人が一緒に楽しめるパラスポーツであることについて、理解が深まった。その結果、団地の自治会がボッチャセットを購入し、今後ボッチャを活用した交流の場の立ち上げの機運につながった。

・地域住民が企画運営に関わる公民館主催の講座への講師依頼を受けて、地域住民向けに社会福祉協議会、CSW及び地域支え合い推進員についての説明を行った。その中で、家族以外との関わりがなく、孤立がちな当事者が地域活動に参加し、他者とのコミュニケーションで自信をつけ、就職に至った事例を紹介した。困りごとを抱える世帯が身近にもいること、様々な地域活動が困りごと解決のきっかけとなっていることを働きかけた。また、講座後に参加者から、近所に空き家かもしれない住宅があり、どこに相談したらよいか分からないという相談を受けた。

## (6) 大学との連携による地域福祉推進の担い手づくり研修の実施

### ア 事業内容

ルーテル学院大学の地域福祉ファシリテーター養成講座との連携により、地域住民等に対して地域福祉推進の担い手づくり及びそのフォローアップを行う。

### イ 期待される効果

講座を通して、地域住民自らが地域福祉ファシリテーターとして、地域福祉推進の役割を担い、生活困窮等につながる地域生活課題を考えることや地域活動者をつなぐ役割を担える人材となってもらおう。

また、講座修了生とともに地域生活課題の把握及び既存の社会資源の把握を行い、その課題解決や啓発に向けた活動や取組を通して、地域福祉ファシリテーターとしての役割や目的の理解が深まる。

### ウ 取組目標

① 量的目標

令和7年度地域福祉ファシリテーター養成講座 11回

② 質的目標

地域住民自らが地域福祉ファシリテーター養成講座に参加することで、地域を考えるきっかけにつなげる。

講座修了生とともに地域福祉ファシリテーターとしての調布市における役割や目的を考え、講座修了生一人ひとりが主体的に地域生活課題に向き合い、行動につなげる人材となる。

エ 成果

① 量的成果

- ・ 令和7年度地域福祉ファシリテーター養成講座 11回
- ・ 講座修了生との検討、視察及び活動実施 11回

② 質的成果

- ・ 令和7年度の受講生は、参加目的や立場が異なる3人が受講した。今後の取組について、自宅を活用したスマホサロンの立ち上げ、地域での防犯・防災講座の開催、過去の調布市修了生との情報交換会の企画の3つのアイデアが出され、実施に向けて、検討を進めている。
- ・ 過去の修了生から修了生同士での情報交換の機会があるといいという声を聞いていた中で、今回の5期生からも過去の修了生との情報交換会のアイデアが挙がった。それを踏まえ、5期生とともに修了生同士の交流会を企画し、令和8年3月の実施に向け、準備を開始した。
- ・ 1期生から3期生は、現在一人ひとりがそれぞれの地域で思いやペースに合わせて活動をしている。また、期生ごとにお互いの活動等の情報共有をしたり、参加したりしている。CSWや地域支え合い推進員から、地域活動や地域づくり事業勉強会、地域講座などの情報を発信し、興味関心のある活動や講座への参加を促している。

- ・ 4 期生は昨年度の発表をもとに，既存の活動者の想いを知る，地域のニーズを把握する，今後の活動のヒントを探すことを目的に，12月末現在，市内9か所の地域活動及び常設の拠点を見学している。